

## 国際天文学連合シンポジウム#341 Challenges in Panchromatic Galaxy Modelling with Next Generation Facilities の開催

Holding International Astronomical Union Symposium #341 Challenges in Panchromatic Galaxy Modelling with Next Generation Facilities

井上 昭雄 (INOUE Akio)

国際天文学連合 (International Astronomical Union = IAU) は、世界の天文学者が加入する学術団体であり、1919年に設立された。主要な事業の一つに国際シンポジウムの開催がある。その第341番目として、表題のシンポジウムを2018年11月に大阪大学会館において開催した。私は現地組織委員長としてシンポジウムの開催全般を取り仕切った。本研究費により、開催費用の一部（ポスター掲示パネルレンタル代）を賄うことができた。

今回開催したシンポジウムは、宇宙史の中でどのように銀河が形成し、進化してきたのかを研究する銀河形成進化論のうち、特に、銀河のスペクトルに焦点を当てたものである。最新の理論と観測の知見を持ち寄り、将来の大規模観測装置の時代を視野に、今後の研究の方向を見定めることが科学的目標であった。日本のすばる望遠鏡や諸外国の大型望遠鏡、また、日本もメジャーパートナーとして参加するアルマ望遠鏡などにより得られた最新の銀河のスペクトルの観測的知見が持ち寄られ、それらを解釈する理論スペクトルモデルの研究者も参加し、活発な議論が行われた。また、今後10年程度で稼働する大型観測装置による研究の発展の予想や方向性の議論も行なわれた。

シンポジウムは、2018年11月11日夕方のレセプションから始まり、本会議は12日から16日までの5日間にわたった。8件の招待講演を含む73件の口頭発表と、44件のポスター発表が行われた。口頭発表の質疑応答も活発に行われた。Q&Aフォームを用いて議論の記録を行なった。また、議論の総括のためのパネルディスカッションや、最優秀、優秀ポスター賞の選考と表彰も行なわれた。全体で128名の参加者があり、その国・地域は、欧州12か国、アジア5か国・地域、米州5か国、豪州となり、世界中からまんべんなく参加者があったことが分かる。本シンポジウムの成果物として、IAUシンポジウム集録が科学組織委員会によって編纂され、もうすぐ刊行される予定である。

シンポジウム本会議に先立つ2018年11月11日午後には、大阪産業大学梅田サテライト教室において、本シンポジウムと連動した高校生向けの講演会を開催し、多くの来場者を集めた。シンポジウム組織委員会を代表して、Denis Burgarella フランス・エクス-マルセイユ大学教授が、銀河スペクトルの解説と天文学者の日常生活について、日本語で講演を行なった。また、花田真理子大阪産業大学教授が司会を務めたパネルディスカッションでは、高校生からの熱心な質問で会場は大いに盛り上がった。

最後になりましたが、本研究費による援助および大阪産業大学の同僚の皆様のご協力により、権威あるIAUシンポジウムを滞りなく開催することができました。心より感謝申し上げます。